新連載予告編

—お詫び—

本誌との約束で仕事を進めていたのですが、持病の腰痛に見舞われあえなくダウン。
　自身、ふがいなさを嘆くと同時に、ご迷惑をおかけしたこと深くお詫びします。

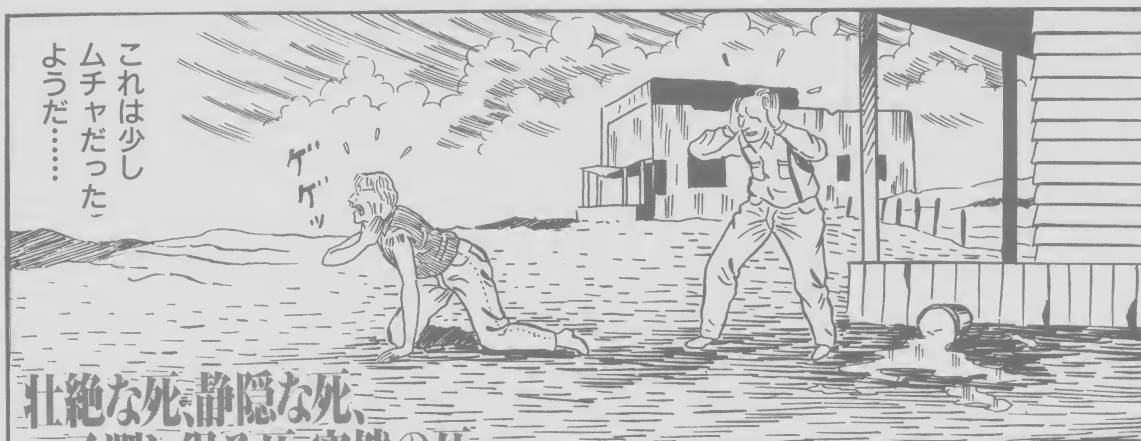
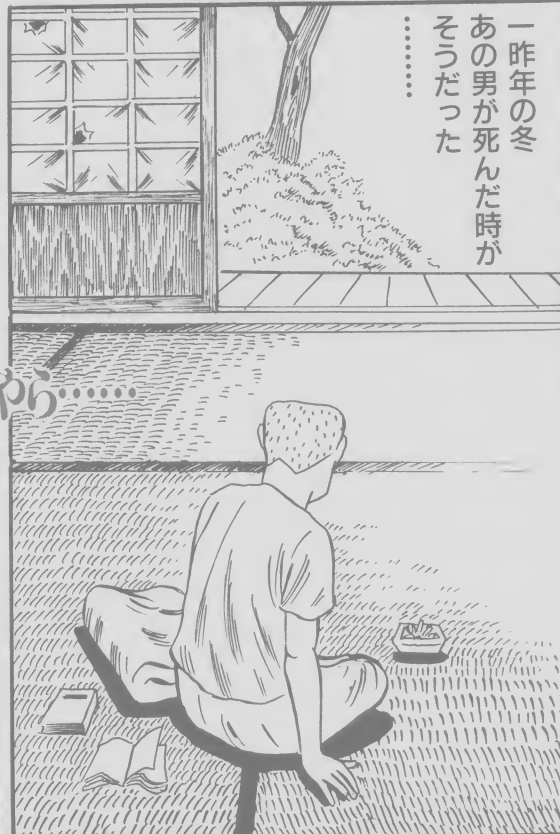
—予告—

さてそこで、次号こそは間違いあるまいと踏み、現在書き進めているうちから、数頁を抜き出し、予告という形をとらせていただきました。
　毎号の連載を目論んでいます。何とぞよしなに……。

つげ忠男

生きている小魚を
まる飲みにしようと
いうのだが……

妙な遊びを思いついた
ものである

人は色々な死に方をする
自身、齢をとってきたせいか

これは少し
ムチャだった
ようだ……
ゲゲッ
壮絶な死、静隠な死、
予測し得る死、突然の死……
背ビレだか尾ビレだかが
ノドに刺さり……
飲み込むも吐き出すも
出来なくなった……
とりわけ他人がバカバカしく思ったり
たちまち
呼吸困難に陥り
男の一人が絶命した
……
後で警官か検死官かが
タメ息まじりに
こう呟いたそうである
……
思わずくだらないと長嘆息をしたりするような
"死"に気を惹かれ
こんな
くだらない
死に方には
初めて
出合った
……と

つげ忠男『日本三文死集』次号、第一話「ある凍死」ご期待ください。